

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 5 区分

【発行日】平成26年10月23日 (2014.10.23)

【公開番号】特開2013-87379(P2013-87379A)

【公開日】平成25年5月13日 (2013.5.13)

【年通号数】公開・登録公報2013-023

【出願番号】特願2011-227993(P2011-227993)

【国際特許分類】

D 0 4 B 1/22 (2006.01)

D 0 4 B 1/00 (2006.01)

【F I】

D 0 4 B 1/22

D 0 4 B 1/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成26年9月9日 (2014.9.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

特許文献 1 (特開 2 0 0 4 - 1 0 7 8 0 0) は、表編地と裏編地との間に、ウーリーナ  
イロン等の連結系をタックにより挿入し、厚みのあるスペーサファブリックを編成する  
ことを開示している。しかしこのスペーサファブリックは表裏双方に膨らんでおり、表裏の  
一方のみに膨らみがあるものではない。特許文献 2 (実開昭 5 2 - 1 0 8 3 7 7) は、表  
編地と裏編地の材質を異ならせ、表裏の編地間にインレイ等により他の系を挿入するこ  
とにより、表裏の編地の一方を膨らませることを開示している。しかしながら特許文献 2 で  
は、編地の材質を表裏で異ならせる必要がある。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

タック t 1 とタック t 4 は連結系によりつながり、タック t 2 とタック t 3 も連結系に  
よりつながっている。タック上に編目を形成する工程 (図 3 の S 1 ~ S 4) において、先  
ずタック t 1 に最初の編目 2 6 が形成され、その後、タック t 2 , t 3 に対してそれぞれ  
編目 2 7 , 2 8 が形成される。図 5 に示した時点では、タック t 4 は針 2 0 に係止されて  
いるため、連結されているタック t 1 を引き寄せる。さらにタック t 1 とタック t 4 間の  
渡系の上に、タック t 2 , t 2 上に形成された編目 2 7 , 2 7 間の渡系 p2、及びタック t  
3 , t 3 上に形成された編目 2 8 , 2 8 間の渡系 p3 が載ることになる。これによりタック  
t 4 にテンションが加わり、編目 2 6 の形成により既に針から外れたタック t 1 の目から  
連結系がタック t 4 側に吸収され、タック t 1 の目が縮む。この状態からタック t 4 上に  
編目が形成され針から外れると、タック t 1 が属する側の編地が相対的に縮んでフラット  
になり、タック t 4 の属する側の編地が相対的に膨らむことになる。図 3 のニットのコー  
ス S 1 ~ S 4 でタック上に編目を形成する際に、それぞれ連結されたタック t 1 とタック  
t 4 , タック t 2 とタック t 3 をペアとし、最初にタック t 1 上に編目を形成し、最後に  
タック t 4 上に編目を形成すると、タック t 4 側の編地を大きく膨らませることができる

o